

令和3年度 学校自己評価表 評価シート(最終)

三次市立作木小学校

| 学校教育目標 | | | | ふるさとに学び たくましく生きる子どもの育成 一元気 本気で 最後まで一 | | | | 達成度＝達成値÷目標値×100 A: 目標以上 B: 達成度が目標の80%以上100%未満 C: 達成度が目標の60%以上80%未満 D: 達成度が目標の60%未満 | | 学校関係者評価 A: 適切 B: 不適切 C: 分からない | |
|--------------|-------------------------------------|--|--|--------------------------------------|-----|--|-------|--|--|-------------------------------|--|
| 中期経営目標 | 短期経営目標 | 1年後に目指す姿(評価指標) | 具体的な実践項目 | 10月 | 2月 | 評価結果と改善策 | 関係者評価 | ご意見 | | | |
| | | | | 達成度 | 達成度 | | | | | | |
| 確かな学力の育成 | 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。 | ① 国語・算数・理科・社会の単元末テスト80点以上の児童の割合が80% (中間評価…1～6年) | ○ドリルタイム、常清タイムにおいて、「書きとり」「読みとり」「計算」を継続して練習し定着させる。 | A | A | 《全校結果》(4教科平均達成度)【111】 ○国語95.3%達成度【123】 算数83.7%達成度【105】 社会88.2%達成度【110】 理科85.3%達成度【106】 《考察・改善策》 ○4教科とも目標を達成している。年間を通して、常清タイム等を活用した漢字の書き取りや読み取りを継続して取り組んでいるので、国語科の知識・技能がよく定着しており、その成果が出ている。また、児童一人一人の実態を把握し、課題に合った内容をドリルタイムや宿題等で、繰り返し取り組んだことで成果がみられた。自主勉強ノートを活用し自主的に取り組む児童が増えた。一方、学力差はまだ大きいので、個別の支援を引き続き行い定着を図っていく。 | A | ・一人一人への細やかな取組が大切だということが、数値に現れていると思いました。 ・評価は適正である。 ・子どもたち一人一人に合わせた先生方の学習指導の成果が目標達成につながったのだと思います。 | | | |
| | | ② 三次市学力到達度検査において全国平均を上回っている児童を70%以上。(年度末評価) | ○東書WEB等を活用し、個別最適な学びの充実を図る。 | | A | 《全校結果》(全国平均との差) ○国語+5.25ポイント、算数+10.05ポイント、理科+4.925ポイント、社会+7.3ポイント→4教科平均+6.88ポイント 《考察・改善策》 ○本校の平均点が、全教科において全国平均を4～10ポイントを上回っている。中でも本校の研究教科である算数科は、10ポイントと高かった。 ○今年度中に、正答率の低かった問題を再度指導し、定着を図っていく。 | | ・6年生の理科が少し心配ですが、全体的には好成績を上げていると思います。 ・算数の学力は、概ね付いています。2・4年生の底上げが必要で | | | |
| | 見方・考え方を働かせた指導から、説明力(思考力、表現力)を向上させる。 | ① 三次市学力到達度検査(算数の活用)において、全国平均を上回っている児童が70%以上。(年度末評価) | ○「見方・考え方」を働かせた指導の在り方の視点から、一人年2回以上の授業研究を行う。 ○小中合同研修会を通し、説明力の質の向上をめざした授業改善を行う。 | | A | 《全校結果》(算数の活用問題:全国平均との差) +12.2ポイント 《考察・改善策》 ○算数の活用について、全国平均を大きく上回った。しかし、個人差が大きいので、個に応じた指導を継続していく。 ○授業研究は、2学期以降計画通りに進めることができ、「数学的な見方・考え方」を働かせた指導の在り方について研修をもつことができた。 | A | ・活用力が付いてきています。取組の成果が現れています。 ・評価は適正である。 ・2年生が少し落ちていますが、全学年では好結果です。 | | | |
| | | ① 読書目標(1ヵ月)の達成率65%以上。(実態調査) 低学年:30冊以上 中学年:350ページ以上 高学年:500ページ以上 | ○「スタディ・ウィーク」「作木っ子の学びのすすめ」を活用する。 ○作木図書館と連携し、読書習慣の形成を支え、読書環境を整える。 ・本の紹介、読書カードへの記入 ・学級への本の貸し出し ・読書量の達成者への評価 | A | A | 《全校結果》 全校:29人/44人(66%) 達成度【101】 低学年:4人/10人(40%) 中学年:13人/14人(92%) 高学年:12人/20人(60%) 《考察・改善策》 ○委員会活動で毎月の表彰を行う等、児童の意欲を高めた。 ○10月の評価に比べ、読書通帳の記入が多く、児童が読書に意欲を持ったと感じている。 ●中学年(92%)に対して、低学年(40%)、高学年(60%)の数値を上げる必要がある。低学年に関しては、本を読む速さが個人で違うため、個人差が大きく表れた。 | A | ・達成目標が65%は低いのではないかと。3・4年生の達成率が突出しているため、助けられているが1・2・5・6年が低い。 ・達成率を70%に上げられるようになると良いと思います。 ・目標値が達成できています。低学年が増えると良いです。 ・評価は適正である。 ・1・2年生目標設定(数値)について、他に良い設定方法があれば、検討いただきたい。 ・図書館が隣という好条件はもちろんです。目標に向けて先生方・家庭の助言・協力、子どもたちの努力の成果です。読書を通じて、書く力、伝える力等のたくさんのことが身に付いたと思います。 | | | |
| 豊かで健やかな心身を育成 | 自己肯定感を高める。 | ① 学校生活に関する児童アンケート、i-Checkの項目について肯定的回答80%以上。「自己肯定感」、「思いを伝える」、「お互いを認め合う」 ・自己評価・相互評価 | ○掲示等の見える化を図り、具体の姿で指導する。 ○児童会で月目標、全校での取組を仕組む。 ○学級会活動や児童会活動で集団遊びを計画し、異学年との関わりも深める。 ○学校生活のあらゆる場面で、協力して活動し、達成感をもたせる。 | B | B | 《全校結果》 i-Checkの項目について肯定的回答の割合 「自己肯定感」…79% 達成度【98】 10月:73.4% 「思いを伝える」…84% 達成度【105】 10月:69.2% 「認め合い」…75% 達成度【93】 10月:74% 《考察・改善策》 ○掲示や表彰などで、児童のがんばりを視覚化し評価することを継続して行っていく。 ○誕生日紹介ポスターづくりの取組は、一人一人が大切な存在だと認め合うことにつながったと考える。今後も継続して取り組んでいく。 ●全項目で前期より肯定的回答が増えているが、「自己肯定感」「認め合い」の2項目は目標に届いていない。 ●児童の日常的な努力や取組をさらに積極的にすべての教職員が評価し肯定的な声かけをしていくことで自己肯定感を高めていく。 ●児童の行動の結果を評価するだけでなく、結果に至るまでの過程を具体的に評価することを重視する。 ●今後は感染症対策を講じながら、できることの中で工夫をし、学級、全校さまざまな機会を捉えて、児童一人一人の活躍の場を意図的に設定し達成感を味わわせることを大切にする。 | B | ・目標の80%が高い。75%にしてA評価にしても良いと思う。 ・一人一人の良さを受け止められ、肯定感を高めるための継続的な工夫が実ると良い。 ・「伝えること」の回答が増えています。取組の成果だと思います。表現力を付けることは、小中学校共通の課題だと思います。 ・評価は適正である。 ・今年度得られた課題の改善に、家庭との連携(日々の努力)をお願いいたします。女子の体力向上を期待します。 ・安心して過ごせる場所(家庭・学校)があり、自分を理解してくれる友達がいることで、周りの人を認め、優しい心が育つと思います。課題はあるけれど、学校は大きな船だと思います。 | | | |
| | | ① 新体力テストの全国平均以上の項目を70%以上。(学年末評価) | ○脚力・跳躍力を高める運動を取り入れる。 ○運動量を確保した体育の授業を実施する。 ○外遊びを奨励する。 ○めあてをもった体力づくりに取り組ませる。(記録カード等) ○新体力テストの課題項目について、再テストで検証する。 | | A | 《全校結果》 ○新体力テストの全国平均以上の項目達成率の割合【70.8%】 ○2回目実施の結果、令和元年度の全国平均値と比較すると、男子の達成率は48項目中37項目の達成(達成率77%)で女子の達成率は48項目中31項目の達成(達成率64.5%)であった。女子の体力値が70%を下回る結果になった。 ○総合評価はAB率64.3%、DE率9.52%である。(AB+DE)率54.78%2名未実施のため、AB率が低下したが、1回目実施(5月)の2名の結果を反映させるとAB率に変化はなかった。しかし、DE率が1名減により、向上した。 《考察・改善策》 ○コロナ禍において、運動が制限されるところもあったが、1、2学期を通して、マラソンや体幹運動に取り組めた。 ●取組の充実を図る必要がある。児童に1つ1つの運動の意味を理解させておらず、正しい体の動かし方が十分定着していなかった。 ●1回目と2回目の結果を比較すると、「立ち幅跳び」「上体起こし」の数値が低下傾向にあることが分かった。中学校と連携し、低下する項目の向上に向けての取組を行う。 | A | ・男子は達成しているが、女子が達成していないので評価が難しい。 ・コロナ禍の中で難しい面も多かったと思います。小中合同の体力向上プロジェクトの継続を願います。 ・評価は適正である。 ・体力面では、課題も多かったと思います。(子どもの置かれている環境)課題の項目に向けての努力もあり、目標値への向上が見られました。 | | | |
| 愛され、信頼される学校 | 学校への関心・信頼度を高める。 | ① 保護者・地域のアンケートにおいて、肯定的評価85%以上。(情報発信・教育内容公開・学習発表会・学校満足度等) | ○学校、学級、保健便り等の計画的な発行と日常的なホームページ更新を通して、情報発信を行う。 ○教育相談体制の充実を図る。 | A | A | 《全校結果》(学校アンケート)達成度【105】 保護者対象の学校アンケートの結果の肯定的回答は次の通りである。 ①お子さんは、「学校は楽しい。」と言っている 84% 達成度【99】 10月:95% ②お子さんは、「学習したことがよくわかる。」と言っている 88% 達成度【104】 10月:83% ③お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いている 88% 達成度【104】 10月:74% ④お子さんは、ふるさと学習によって作木のことを学んでいる 88% 達成度【104】 10月:93% ⑤学校は、学校だよりやHP等を通して、わかりやすく伝えている 97% 達成度【114】 10月:95% 《考察・改善策》 ○学校アンケート(全保護者対象)からは、概ね肯定的な評価を受けている。「⑤学校からの情報発信」については、コロナ禍の中で、保護者や地域の皆様に学校の様子を観に来ていただきにくい状況を受け、日常的な児童の様子や学校の取組等を積極的に意図的に発信したことが成果として現れている。 ○「③家庭学習の習慣」については、1回目の結果に課題がみられたため、学校だより等を活用し「作木っ子学びのすすめ」をもとに保護者の方への啓発を行い、「スタディ・ウィーク」では小中同じ期間を設定し、家庭学習強化週間にも取り組むことにより、14pの増加が見られた。 | A | ・保護者・児童アンケート、両方ともに素晴らしい結果です。 ・「学校は楽しい!」と言っているの項目の数値が2月に84%と下がっていました。アンケートを取られた時期が影響したのかなと思いました。 ・取組の成果が作文に表れています。地域と連携した取組を今後お願いします。 ・評価は適正である。 | | | |
| | | ② 「作木ふるさと学習」後の児童の振り返りや手紙の内容から成果(感動・感謝・生き方)を検証。作木のよさを知り大切に思う児童の割合を90%以上。(学年末評価) | ○学習発表会や「作木ふるさと学習」等を他教科とつながりのある学びから、地域に関わり貢献しようとする児童を育成する。 | | A | 《全校結果》達成度【105】 ○「作木ふるさと学習」を終えた児童の感想やお礼の手紙の内容からは、作木の良さや自然の豊かさを実感し、地域の方に対する感謝の気持ちが読み取れる。アンケート結果からは、95%の児童が肯定的評価をしている。 ○今年度も、感染症対策により、校外での「作木ふるさと学習」は、計画通りに行うことができない状況が続いた。 【常清滝・迦具神社見学(1・2年)、フッポウソウ観察小屋(3・4年)、植林体験(5年)江の川について(6年)】 ○「作木ふるさと学習」の様子については、学級・学校だよりやHPを通して、積極的に保護者や地域に発信している。 《考察・改善策》 ○今後も引き続き、感染症対策を講じながら「作木ふるさと学習」に取り組むことになり、学校教育目標にある「ふるさとに学びたくましく生きる子どもの育成」につながるよう、作木の良さを知り大切に思える教育内容をねらいを明確にさせ取り組んでいく。 | | ・コロナ禍で、2年続けて子どもたちの発表は見られませんでした。が、学校だより等で取組や成果を知らせていただき、がんばっている姿、成果を知ることができました。 | | | |